

研究テーマ：「語順パターンを定着させるための、品詞に対する意識と理解を高める指導の工夫」

所属 高知県立山田高等学校

氏名 岩崎 真知

R G S H 6

【1】 研究の背景

私は現在までライティングの授業を担当したことがなく、昨年度引き継いだクラスのライティングの力があまりついていないことに戸惑いを感じた。何でもないような語順整序問題や簡単な英作文が、一部の生徒を除いてほとんどできていない。英語の基本的な語順パターンが身につけていない。このことは、それまでに感じていた、生徒の品詞に対する意識と理解度の不足が関係しているのではないかと考えた。

【2】 リサーチ・クエスチョン

研究の背景で述べた理由から、「品詞に対する意識と理解を高めるにはどのように指導すればよいか」をリサーチ・クエスチョンとすることにした。

【3】 予備調査

2年進学コース人文系 18 人のライティングのクラス（男子 4 人、女子 14 人）

アンケートを実施した結果、英文を作る時に最も困ることとして、18 人中 10 人が単語の並べ方がわからない、と答えた。品詞の分類とその働きについてのアンケートでは、名詞・動詞以外の分類があまりできず、目的語になることができるのは名詞か名詞の働きをするもののみ、ということが理解できているのは 18 人中わずか 1 人だけであった。

4 月に実施した校内実力テストの語順整序問題では、SV65%、SVC85%、SVO59%、SVOO22%、SVOC50%という正解率で、SVOOの二つの目的語の語順に対する理解度が著しく低かった。また、SVの正解率が低いのは、形容詞や副詞の見分け方とその働きに対する理解が十分にできていないことに原因があるのではないかとと思われる。

【4】 仮説の設定

仮説① 「授業中に教員が意識して品詞に関する質問をすれば、品詞に対する理解度と意識が高まるのではないかと」

仮説② 「各自に品詞シートを作成させれば、品詞に対する意識と理解が高まるのではないかと」

仮説③ 「品詞の働きに関する小テストと、ごく簡単な語順整序の小テストを繰り返し実施すれば、品詞の働きに対する理解度が高まるのではないかと」

【5】 計画の実践

- ① 教科書例文や問題文、1つの文につき必ず1つの単語を取り上げて、品詞の分類とその働きに関する質問をする。
- ② 品詞（parts of speech）シートを配布し、単語集を使って品詞別の英単語帳を完成させる。
1 学期は6つの品詞全てに取り組めるように、教員側が品詞を順番に指定して、シート（単語数 20）が埋まるまで書いていく。2 学期は、生徒に自主的に品詞を選ばせた。また、時間を2分間に限定して取り組ませたので、ほぼ毎時間実施することができた。
- ③ それぞれの小テストを2週間に1回程度実施。語順整序問題は、1 学期は SV、SVC、SVO に限定。2 学期は SVOO、SVOC に取り組ませる。

【6】 実践の結果

小テストの各項目の正解率の変化は次の通りである。

	4 月	12 月
① 主語になれるものは名詞だけである	9 4 %	9 8 %
② 目的語になれるのは名詞だけである	6 %	7 8 %
③ 補語になれるのは形容詞か名詞である	2 8 %	8 9 %
④ 名詞を修飾するのは形容詞である	3 3 %	8 5 %
⑤ 名詞以外のものを修飾するのは副詞である	6 %	7 5 %

語順整序

	4 月	12 月
S V	6 1 %	8 9 %
S V C	8 3 %	9 4 %
S V O	7 2 %	9 1 %
S V O O	3 3 %	7 5 %
S V O C	2 2 %	6 8 %

【7】 結果の検証

質問されることがわかっているので品詞を意識するようになったという生徒の声あり。

また、18 人中 10 人の生徒から「品詞のことが少しわかるようになって、並べ替えの問題が以前よりはやり易くなった」という感想が寄せられたのは教師にとって励みとなった。

品詞の働きに関する小テストでは、最初から正解率の高かった①の項目以外の正解率も上がってきた。補語について、形容詞が補語になれるという意識は最初からかなり高かったが、名詞が補語になれるというものの理解がなぜか低かったが、それも改善はされてきた。分類と働きが結びつくようになってきたようだ。当初混乱のあった SVOO の 2 つの目的語の語順の理解度も上昇してきた。

品詞シートに対しても、自分で問題意識を持って取り組める生徒が増えてきたように感じる。

【8】 成果と今後の課題

生徒同士で品詞に関する質問をし合ったり、語順整序の問題を出し合ったりする姿が見られるようになった。当初は品詞というものがあることすら意識になかった生徒も多かったが、アクションリサーチⅠ、Ⅱを通じて、品詞に対する意識は確実に高まったと思う。また、その働きに関する理解度も確かに高まったが、それが語順パターンの定着や理解にまで結びついたかということ、全く不十分であり、いかに実際の英作文につなげていくか、そしてそれをどうやって検証していくかがこれからの課題である。語順整序の正解率が上昇したからといって、それがそのまま英作文力の向上につながるわけではない。並べ換えはある程度できるようになっても、英作文や和文英訳となると、相変わらずお手上げという生徒が大半である。

また、品詞に気を取られ過ぎてしまったことも反省点で、リーディングやリスニングも含めた様々な活動をもっと取り入れるべきだった。

今回初めてアクションリサーチに取り組んでみて、反省することが多く、もう 1 度やり直したい気持ちにかられているが、授業だけでなく自分の教員としてのあり方そのものを考え直すきっかけとなった。アクションリサーチというものが体得できたわけでは全くないが、これまで行ってきた授業評価は、どちらかという形だけのものになってしまっていたので、本当に効果のあるやり方というものを自分なりに模索していきたいと思う。